

## 新しく敦賀医療センターに病院名を変えました

平成 27 年 9 月放送

半田 裕二

本年 4 月 1 日より、国立病院機構福井病院の名前を「国立病院機構 敦賀医療センター」に改称いたしました。当院は明治 31 年 3 月に敦賀連隊区司令部敦賀衛戍病院として開設され、その後、国立療養所敦賀病院となり、平成 15 年 7 月 1 日に国立療養所福井病院と統合し国立福井病院となり、平成 16 年 4 月 1 日に独立行政法人国立病院機構福井病院と改称されてきました。



しかし、敦賀の地で、地域医療を行うには「敦賀」の名を入れるべきという意見があり、また病院機能のさらなる充実を目指すために「敦賀医療センター」と改称し、新たなスタートとしました。奇しくも、病院の名前が変更した 4 月 1 日は、敦賀気比高校が甲子園にて優勝の栄光を勝ち取った日であり、敦賀の名前を全国区とした日でした。

当院はこれまで、国の医療政策としての、がん、結核、重症心身障害児や障害者医療、血液の病気やエイズに対しての専門的な医療を推進する一方で、その他の外科や内科の多くの病気の診療、救急医療にも力を注ぎ、努力してきました。

病院スタッフの思いは、患者さんの立場に立った開かれた医療、患者さんに信頼される質の高い医療を提供することです。患者さんには最善の治療を受けることを約束しますということです。そのためには、病院としての機能を向上

させることが重要となっています。医療従事者の確保は言うまでもなく、診療カルテの IT 化、医療機器を最新のものに更新してきました。今後は病院施設の増改築を目指しています。

病院の名前を「敦賀医療センター」とした理由は、入院や外来での診療のみならず、医療センターの全ての部門において、「研究」と「教育」の二つの分野を充実させることにより、患者さんの治療に貢献できるものと考えたからです。医療センターでは、診療、教育、そして研究の三本柱を構築することにより、地域の住民の皆様や、地域の医療機関の皆様に還元できる医療を展開できるものと確信しています。

医療センターとした、もう一つの目標は、「開かれた病院」です。地域の患者さんを全て診察し、必要であれば入院治療を受け入れるということは言うまでもなく、治療のみならず、医療や福祉の相談を気楽に受けることができ、病院に行けば医療について学べるような施設と職員のさらなる充実を目指しています。また、近隣医療施設との連携、在宅医療をなされている患者さんへの支援、在宅緩和医療や栄養指導、服薬指導等も積極的に行う予定です。また、地域での公開講座など、啓発的な活動もこれまで以上に多く行う予定としています。

敦賀医療センターとして生まれ変わった気持ちを持ち、地域のニーズに応じた診療体制を整え、「地域住民の病院」としてさらに皆様に親しまれることを実行していきますので、よろしくお願いいたします。